

## 第 33 回法人会全国大会長崎大会見聞録

会長 田島淳次

今回の全国大会は遠隔地という事もあり、前日の 10 月 19 日午後九州の熊本地震を少し回想しながら、空路神戸空港から長崎空港へと足を運ぶこととなりました。個人的には中学校の修学旅行以来、約 50 年ぶりに金木犀の香りが漂う長崎市訪問となりました。

10 月 20 日当日の会場は長崎ブリックホールで午後 2 時から、全国から約 1800 名の参加のもと開会となりました。第一部として長崎総合科学大学教授のブライアン・バークガフニ氏により「地方が生き残るために」～長崎 その歴史 その魅力 その未来～という演題で記念講演がありました。1950 年カナダ生まれで 22 歳に来日、臨済宗入門得度し京都妙心寺で禅の修行を 32 歳まで行い、その後長崎に移住しました。42 歳の時に外国人で初の長崎県民表彰を受賞されて、46 歳で同大学の教授に就任されております。長崎市は徳島と違い、このシーズンは修学旅行生が今も沢山来ており、世界遺産の建造物で会いましたが、氏の言葉で印象的だったのが「地方が生き残るためには、足元をみよう、温故知新、自他の違いを楽しもう！」と言われておりました。

その後、第二部は大会式典が迫田国税庁長官や中村長崎県知事らの多くの来賓をお迎えし、厳かに開催されました。税制改正提言の報告や昨年度の青年部租税教育プレゼンの最優秀賞の広島南法人会青年部から報告もあり、大会宣言まで内容が濃いものがありました。閉会の挨拶は次年度開催地の清川福井県連会長が PR 映像を交えながら締めくくられました。

昨年に地元徳島大会が開催されたこともあり、比較するよしも無いのですが、受付や交通事情の違いにより送迎バス、その他に於いても簡略化されている印象がありました。

第三部の懇親会は会場を移動して長崎駅に隣接するホテルニュー長崎で盛大に開催されましたが、会場が思いのほか狭く、女子高校生による長崎伝統の蛇踊りも華を添えていたのですが、満員電車状態でした。ご当地の食材は卓袱（しっぽく）料理に代表されるように、和洋折衷的な異国情緒を楽しめました。

バークガフニ教授の言葉通り、地元の人々ほど地元の本当の価値を知らないのではないかと、という思いがしています。日本は緑豊かな自然と澄み渡る河川や青空を持ちながら、それが当たり前とっていますが、諸外国の川や空はそんなに澄み渡っておりません。安全・安心で清潔な環境は国民の皆さんが真面目に働き、納税する事によって、保たれていることも忘れてはならないことだと感じます。

今後ともに当法人会も、地元の魅力を再発見して会員・地域の方々に期待される組織として、多くの事業を展開して行きたいと再認識したしだいです。